

# みどりとひと



No.126 みどりの新聞 平成15年12月20日 発行

## 二つの緑化施策を検討しています。

杉並区21世紀ビジョンが目指す杉並のまちの将来像「区民が創る『みどりの都市』杉並」の実現に向けて、区は様々な緑化施策を推進しています。平成11年に策定した「杉並区みどりの基本計画」にうたわれ、取り組みが遅れている施策の具体的検討のため、学識経験者や公募区民等を交えた「杉並区みどりのリサイクル検討懇談会」と「杉並区みどりのベルト計画検討懇談会」を9月に設置しました。両懇談会とも4回の審議を行い、提言を現在取りまとめています。今回はそのお知らせをします。

### 杉並区みどりのリサイクル 検討懇談会

みどりのリサイクルは、循環型の社会づくりを目指すひとつの方策として、剪定枝葉や落ち葉など、

日常的な緑の維持・管理から出る植物系の発生材を可能な限り資源として利用しようとするものです。みどりのリサイクルを区と区民が一緒に取り組める事業とするため、学識経験者、専門家や区民の皆さんのそれぞれの立場からご意見をお聴きし、実施に向けた具体的推進内容を検討する懇談会です。

	日時	主な検討内容
第1回懇談会	平成15年 9月3日(水)	○みどりのリサイクル活動の現状と課題 ○みどりのリサイクルの基本的な考え方
第2回懇談会	平成15年 10月15日(水)	○みどりのリサイクルプログラムについて ●公的なみどりのリサイクルについて ●私的なみどりのリサイクルについて
第3回懇談会	平成15年 11月10日(月)	○みどりのリサイクルプログラムについて ●みどりのリサイクルプログラム策定の方針について ●みどりのリサイクルプログラム(案)について
第4回懇談会	平成15年 12月15日(月)	○みどりのリサイクルプログラム(案)について ○懇談会のまとめ

#### 懇談会委員一覧

座長 勝野 武彦(学識経験者)  
 職務代理 濱野 周泰(学識経験者)  
 荻野 淳司(専門研究者)  
 深澤 由樹(リサイクル事業関係者)  
 倉本 昭吾(農業関係者)  
 吉田 太郎(東京都関係職員)  
 横山 正(環境教育関係者)  
 浅岡八枝子(環境活動区民)  
 境原 達也(環境活動区民)  
 山室 京子(環境活動区民)  
 杉之原三廣(公募区民)  
 畠山 征晃(公募区民)  
 山本 宏(公募区民)

### 杉並区みどりのベルト計画 検討懇談会

様々な生き物が生育・生息し、みどりの豊かさが実感できるまちを実現するためには、区内の点・線・面のみどりを有機的に結び付け、みどりと水のネットワークを構築することが必要です。みどりのベルト計画はこれを具体的なみどりのベルト事業として区内で展開をしていくためのもので、学識経験者や区民の皆さんの意見をお聴きし、具体的な事業を推進する方策を検討する懇談会です。

	日時	主な検討内容
第1回懇談会	平成15年 9月12日(金)	○区内のみどりの現状 ○みどりのベルトについての各委員の思い
第2回懇談会	平成15年 10月14日(火)	○みどりのベルト計画の基本的な考え方 ○みどりのベルト計画基本構想について ○みどりのベルトモデルについて
第3回懇談会	平成15年 11月20日(木)	○みどりのベルト計画モデル候補地域等によるスタディ ○みどりのベルト計画(案)について
第4回懇談会	平成15年 12月16日(火)	○みどりのベルト計画(案)について ○懇談会のまとめ

#### 懇談会委員一覧

座長 丸田 頼一(学識経験者)  
 職務代理 村上美奈子(学識経験者)  
 藤原 宣夫(専門研究者)  
 中村 忠昌(専門研究者)  
 菊地 隆(鉄道事業関係者)  
 上杉 俊和(東京都関係職員)  
 清水 孝之(東京都関係職員)  
 小澤 恵一(公募区民)  
 西村たりほ(公募区民)  
 宮寺 修一(公募区民)



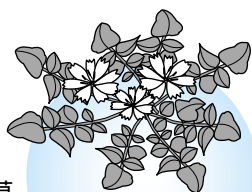
審議風景

# 春の七草

## ほとけのざ

キク科。

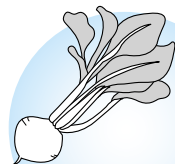
日本全土に分布し、水田や畦に生育する越年草。別称「小鬼田平子(コオニタヒラコ)」と呼んでいます。春の七草で「ほとけのざ」といっているのは本種で、現在、ホトケノザと呼んでいるのはシソ科の越年草で別物です。



## すずな(鈴菜)

アブラナ科。カブの別称。地中海あたりが起源で、畑作で日本全土に普及し改良されました。

蕪は頭の意味で根が頭状になるので呼ばれるようになった健康食品です。



## すずしろ(蘿蔔)

アブラナ科。ダイコンの別称。

地中海あたりが起源で、中国経由で渡来し、品種改良が進みました。畑に栽培される越年草で、4月頃白い花を咲かせます。健康食品です。



「秋の七草」は眺めて楽しむもの。それに対して「春の七草」は花も咲きますが、「薬草」で「食用」とするもの。日本の食文化史からも忘れられない存在です。「唐土(とうど)の鳥が、日本の土地へ、渡らぬ先に七草齋(なすな)などのやし文句が伝えられています。「七草粥」をつくる家庭が残念ながら少なくなくなっています。かつては主要な年中行事の一つでした。

## せり(芹)

セリ科。日本全土に分布する多年生草で湿地や田んぼの畦に生育します。白い小さな花が夏に咲き、薬用として全草に効果があるとされています。



## なずな(薺)

アブラナ科。

北半球に広く分布する越年草(二年草)。

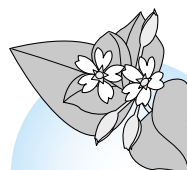
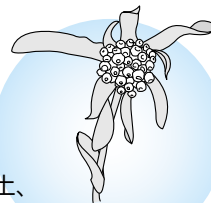
風に揺れたときの音から、あるいは三味線のバチに似ているところからペンペンサの異名があります。



## ごぎょう(御形)

キク科。日本全土、

アジア各地の山野に自生する越年草で、ハハコグサ(母子草)という名で親しまれています。



## はこべら

ナデシコ科。

北半球、日本全土に分布。川原や畑などに群生する越年草。ハコベ。花期は春で薬用として全草が採取されています。

### 参考図書

「薬草(ポケット図鑑)」 矢萩信夫・矢萩禮美子著 成美堂出版  
「日本の薬草」 貝津好孝著 菅原光二写真 小学館  
「原色植物図鑑(日本百科大事典別冊5)」 小学館  
「カラー図説 日本大歳時記 新年」 講談社

## みどり探訪



### みどり再発見。

杉並のみどりやそれに関わる方々をご紹介します。

### 医療機関の片すみ「癒しの場」

荻窪の繁華街を抜けた密集住宅地の中、東京衛生病院と天沼教会の敷地内にほっとする、オアシスのような癒される空間があります。

病院は昭和4年創設と歴史は古く、木々が鬱蒼とした中庭があり、職員や入院患者はもちろん、通院患者や見舞いの人たちの憩いの場になっています。木製のベンチたちもありがたい存在です。

区の保護樹木となっている桜は手入れが行き届き、視野をふさがない低い生け垣、車椅子でも回れる遊歩道、季節の花が楽しめる花壇などがあり、公園とは一味違った心和ませる場所です。

がんばっています!!

## みどりのボランティア杉並

「区民がつくりあげた」環境博覧会すぎなみ2003 終わる

# みどりのまち部会報告

みどりのまち部会長 みどりのボランティア杉並 能登山 明美

区民と行政が一緒になって開催した環境博覧会も去る10月11・12日、心配されたお天気にも恵まれ、来場者数およそ16,500名を得て無事終了しました。

私たちは、みどりのボランティア杉並の有志として、「活動発表の場、杉並のみどりを守り・増やしていくための情報交換の場、区民一人ひとりが自分たちのまちの環境は自分たちで創っていく」という思いから、みんなで住み良い環境を考え、活動するをテーマにさまざまな企画を実施しました。

みどりのまち部会の会場へ入る西側階段は、みどりのボランティア杉並の植木応援団とピオトープネットワークのみなさんによって飾り付けられました。材料は宮前公園の竹林で公園緑地課が間引いた竹が活用され、コンクリートの建物もあたかも竹藪のように変身しました。さらに、華道家K女史やS氏による植物廃材のオブジェ、そしてミニピオトープ、シンポジウム会場の天然芝と一気に素敵な緑の会場になりました。また、東側入口の階段は区内の造園会社16社によるお花いっぱいディスプレイなどがされました。

各展示ブースではボランティアをはじめ、行政の施策などの紹介、造園会社からの提案などさまざまなものが出展されました。「せっかく展示しているわりには来場者がすくなかったのでは?」「やっている方は盛り上がっていたが、区民全体のものになっていなかったのでは?」などという反省も聞こえていますが、さまざまな取り組みの中から一つでもみなさんご自身が育てる「種」を持ち帰っていただけたのではないかと考えています。

みどりのボランティア杉並も新たな活動の出発点となることができました。



## みどりのボランティア杉並第2期会員募集迫る

「みどりのボランティア杉並」は、区内の地域緑化のために活動するボランティア組織です。任期が2年で平成14年3月にスタートしました。平成16年4月から新たに活動する皆さんを募集します。緑化に関するボランティア活動に興味のある方、杉並区のみどりのために何か活躍したいと思っている方など、意欲のある方なら年齢、性別に関係なくどなたでも会員になれます。ぜひ、ご応募ください。詳しくは、2月の広報すぎなみや区のホームページでお知らせいたします。

## 接道部緑化助成

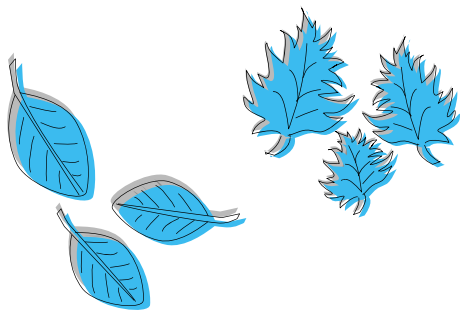
平成14年に生けがきを造られた、Tさんご夫妻をご自宅にお訪ねしお話を伺いました。

- Q どうして、生けがきにしようと思ったのですか。
- A 道路拡幅で数メートル内側へ移動しました。以前も親の代からお茶の木で垣根を作っていましたのでやはり生けがきでと思いました。地震などの時も生けがきのほうが安全ですから。
- Q 今回の新しい生けがきにしての感想は。
- A 木の種類はサザンカにしたのですが、まだ若木です。これから大きくなって、花も綺麗に咲くでしょうから、楽しみです。
- Q ご近所との関係で何か気をつけていることはありますか。
- A 最近は生けがきの家が少なくなりました。木は生きものですから落ち葉などで道路を汚してご近所



へ迷惑をかけないように心がけたいと思います。

- Q 外から見るとお庭と生けがきがマッチしていますね。
- A 以前は土を盛り上げてその上にお茶の木が植わっていましたが、雰囲気は大分変わりました。大きな木を2本ばかり切らなくてはならず、それは少し残念でした。



一歩お庭へ入ると木が多く、急に表の音が遠くなったような静けさを感じました。昔のお屋敷の雰囲気を残すお庭の一部に、奥様丹精の野菜が植えられており、今年は夏野菜を楽しまれたとの事でした。静かにお話なさるご主人から昔の地下水、木などのお話も伺い大変勉強になりました。

### 助成対象

#### 助成の基準

区内で個人が、幅4メートル以上の道路に接する敷地部分に延長2メートル以上、奥行き1メートルの範囲で、基準にある生けがき・フェンス緑化・植樹帯をつくる場合、緑化費用の一部を助成します。必ず工事をはじめ前に公園緑地課みどりの事業係にご相談ください。

種 類	基 準
生けがき	四つ目垣に高さ1.2メートル以上の樹木を1メートルあたり3本程度結束し列植した垣根。
フェンス緑化	フェンスの高さは90センチメートル以上で、長さ30センチメートル以上の多年性つる性植物を1メートルあたり5株以上植え、フェンスが枝葉で覆われるようにしたもの。
植 樹 帯	樹木を葉が触れ合う程度に植栽した植え込み。
既存塀撤去	高さ1メートル以上のブロック塀等で、緑化のために撤去するもの。

# の紹介

区は、さまざまな緑化施策を推進しています。ここでは、その内の助成事業を実際に活用して家の緑化を行った方々のインタビューなどをまじえながら事業をご紹介します。

## 屋上・壁面緑化助成

今年屋上の緑化をされた飯島さんのご自宅をお訪ねしました。

- Q** どうして屋上の緑化をしようと思ったのですか。
- A** 3階の部屋が今年の夏あまりに暑く過ごしにくかったからです。
- Q** 緑化をしてみたの感想は。
- A** 今年の夏は異常気象で暑くなくて、室温への効果は残念ですが実感できませんでした。ただ、日当たりが良く風通しも良いので植物が良く育ち緑が綺麗でバラなどが特によく咲きました。
- Q** どんな風に活用していますか。
- A** 屋上の一部を芝生にしたので、お天気の良い休日には誰かがごろりと寝転んだり、夜はピヤガーデンとして、夜風に吹かれながらビールを楽しむなど家族中で活用しています。ハーブも沢山作りましたのでお友達にはハーブティーでおもてなしをし、風を楽しみ、おしゃべりにも花が咲きました。



ヒートアイランド現象の緩和や省エネルギー効果など、環境に配慮した潤いのある生活環境を創出するため、屋上・壁面緑化工事の経費の一部を助成しています。助成内容など詳しい事は、必ず工事をはじめの前に公園緑地課みどりの事業係にご相談ください。

### 助成対象

区内に建築物を所有または管理している人で、次の緑化を行う場合。

建築物の屋上に緑化区画を設けて樹木等を植栽したもの。建築物の壁面に補助器具等(ネットなど)を設置し、つる性植物を這わせたもの。または、樹木を壁に沿わせて仕立てたもの。



- Q** 庭のデザインや植物を選ぶことなどはどなたがなさったのですか。
- A** つくる前に本などで十分に調べ、私(奥様)の好きな植物を自分で調達しました。
- Q** 手入れが大変ではないですか。
- A** 草花が好きなので楽しみが増え、手入れに一日中掛かりつきりになる事もありますが、苦にはなりません。主人と分担して植物を育てています。

取材にうかがったときは、玄関のホトトギスがちょうど満開で、屋上以外にもたくさんのお花を育てていて、手入れもよく、本当にお花を楽しんでいらっしやるのだと感じました。

「今まで一度も実が付いた事の無いオリーブが、屋上へ移植した今年はたくさんの実を付けました。美味しくつかりましたよ。」と、終始楽しそうに植物一つひとつ丁寧に説明してくださいました。

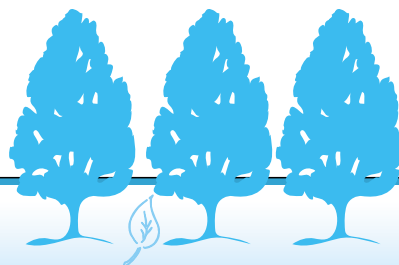
### 助成要件

新たに屋上緑化、壁面緑化を行うもの(屋上緑化の全面的な改修も含む)。

建築物が、建築基準法等に適合し、屋上緑化が可能なが確認されていること。

緑化区画または壁面緑化部分のそれぞれの面積が3平方メートル以上であること。

法令等により屋上緑化等の義務付けがある場合、その面積を超えた部分であること。



# 杉並区みどりの基金

基金の創設検討の段階からかわり、創設後は基金のPRなどに積極的に関わってくださっている、みどりのボランティア杉並・自然観察の会の山室さんに、基金に対する思いを語っていただくとしたところ、その思いを素敵な物語にしてくださいました。



ある日曜の午後、私はお隣の並子さんと杉男君を誘って善福寺川緑地に散歩に出かけた。「金色の小さき蝶の形して銀杏散るなり夕日の丘に」という歌には適わ<sup>かな</sup>ないけれど、川沿いの木々の葉がはらりと落ちてとても秋の深まりを感じ、気持ちよく歩いた。

私

「少しでも、みんなの心が集まって大きなものになるのよ。おばさんはこの基金が始まるずっと前から杉並のみどりのために使える独自の基金があればと思っていたのでこれが出来て嬉しかったわ。この基金の使道には、未来(あす)を拓(ひらく)みどりの人づくり、体験学習や樹名板作製・取り付け費なども入るのよ。また、みどりのボランティア活動にも助成され、基金がさらに大きくなった時には、民有の樹木保全部や貴重な植物の自生地購入も考えられるの。だから杉男君が望んでいるような緑地がもっと増えるかもしれないわね。」

杉男  
並子  
私

「そうだったらいいな。これからも基金に協力します。」  
「私はみどりを育て守るボランティアになりたいわ。」  
「ほんとうにありがとう。先が楽しみだわ。これからも一緒に歩いてね。」

こんなおしゃべりをしながらの散歩であったが、ひとつの種が芽ばえて大きな木になるようならばらしい気持ちにさせてくれた。

並子



「ほんのお小遣いの一部ですよ。」

杉男



「ここは様々な木があつて、木には樹名板も着いていてすてきな所ね。」

私



「こういう所がもっと沢山あるといいね。」  
「ほんとうにそうね。ところで二人とも今年の環境博覧会すぎなみ2003に参加して『みどりの基金』に寄付をしていましたよ。ありがとうございました。」



この基金は、平成14年10月1日に創設されました。区内の緑化推進を願う区民や事業者の皆様からの寄付金を原資としています。皆様からいただいた貴重な寄付金は地域緑化のために直接役立たせていただきます。

寄付金は、税法上の寄付金控除が受けられます。

基金の趣旨にご賛同いただける方のご協力をお願いします。ご協力いただける方、詳しくお知りになりたい方、また、ご不明な点がありましたら、公園緑地課みどりの計画係までお問合せください。

# その他の緑化施策の紹介

## 寄付樹木

区民からのご寄付の申し出により、下記要件を満たす樹木については、学校や公共施設の緑化に活用します。

受領要件

- ・幹周囲が44センチメートル以下のもの
- ・移植に適した時期であること
- ・搬出が容易であること
- ・比較的、若木で根付きやすいもの
- ・病虫害がないこと
- ・公共施設に適していること

詳しいことは、公園緑地課みどりの事業係までご相談ください。

## 生けがき協定

景観上一体性を持った長さが10メートル以上の生けがき・フェンス緑化・植樹帯の保全・育成に関する協定を、所有者同士で結び（個人でも可）区が認定した場合、維持管理費の一部を補助します。詳しいことは、公園緑地課みどりの計画係までご相談ください。

## 緑地協定

住宅団地、工場など一団の土地の緑化またはみどりの保全について、土地の所有者など全員の合意により協定を結び区が認可した場合、協定区域内のみどりの維持管理費の一部を補助します。詳しいことは公園緑地課みどりの計画係までご相談ください。

## みどりの育成協定

敷地面積1,000平方メートル以上のマンション、私立学校などを所有する方または管理者の方と区が結ぶ協定で、区が敷地内を緑化するための苗木の供給、あっせんなどを行います。詳しいことは公園緑地課みどりの計画係までご相談ください。

## 樹木等保護指定

区内に残された貴重なみどりを保全するために、一定基準以上の樹木・樹林・生けがきを、所有者の同意を得て保護するみどりとして指定し、標識を設置して伐採を禁止するほか維持管理費の一部を補助します。

また、樹木保険制度により、指定した樹木・樹林が台風などで枝折れ等した場合、それが原因で物損や人身事故が発生した際、所有者に代わって加入する保険の範囲で対応します。詳しいことは公園緑地課みどりの事業係までご相談ください。

保護樹木 指定の対象

- ・15メートルの高さにおける幹の周囲が12メートル以上ある樹木。
- ・株立ちした樹木で幹の根元回りが15メートル以上ある樹木。
- ・枝葉の面積が30平方メートル以上あるつる性の樹木。

保護樹林 指定の対象

- ・樹木が集団となっている土地の面積が500平方メートル以上ある樹林。
- ・自然的景観を有し、樹木が集団となっている土地の面積が300平方メートル以上あり、高木が30本以上ある屋敷林。
- ・景観上優れていて、樹木が集団となっている土地の面積が300平方メートル以上あり、高木が30本以上ある寺社林および学校林。

保護生けがき 指定の対象

- ・景観上優れ、良好な管理がなされているもので長さが30メートル以上の生けがき。

貴重木保全

保護樹木の内、一定要件の樹木を貴重木として指定し、所有者と区が保全の協定を結び、管理費の一部の補助などを行います。

- ・15メートルの高さにおける幹の直径が90センチメートル以上ある樹木。
- ・枝葉の面積が50平方メートル以上あるつる性の樹木。
- ・同一樹種中特に大きい樹木または区内で良好に生育していることが生態的に珍しい樹木。

各施策の詳細は、下記までお問い合わせください。

## 読者からの情報コーナー

前号で情報をお寄せくださいと記事にしたところ、早速たくさんのお情報をいただき、ありがとうございました。この号では、庄司さんからいただいた情報をご紹介します。

「みどりの新聞 125を見させていただきました。緑の歳時記の木犀の記事に、雄株ばかりで実がならないとの事ですが、杉並区立久我山東原公園の北端中央にある木犀は、青い実をつけます。毎年見えます。雌株も日本に、有ります。元東京大学名誉教授の本田正次先生に葉と実を見ていただいたところ、まれに有るとの事でした。お知らせしておきます。」



庄司さんありがとうございました。これはニュースと早速編集スタッフが、花の前、花の咲く頃、花の咲いた後と数回見に行ってきました。みどりの相談所の相談員の先生にも葉と花と実(?)を見てもらいました。白黒写真でよくわからないと思いますが、花の色が白色で、断定はしにくいのですが、金木犀ではなく銀木犀だろうということになりました。が、間違いなく実がなっていました。相談員の先生のお話や図鑑などから、銀木犀は金木犀と同じ中国原産の雌雄異株で、日本にも雌株があり、実がなることがあるとわかりました。

このように読者とみどりに関する話のキャッチボールが出来ることを、編集スタッフ一同楽しみにしています。これからも素敵な情報をお待ちしています。

## 専門家に聞く 園芸ワンポイント

### 「冬の鉢物の管理」

外で育てていた植物で寒さを嫌うものは最低気温が5度ぐらいになったら室内へ取り込みます。室内での置き場所は暖房器具の吐き出し口等直接風が当たるところを避けましょう。温度と日照が必要なため窓際がふさわしいです。ただし、窓際は夜中から明け方にかけて温度が下がり日中との温度差が植物をいためます。日が陰る時間からは、窓から45センチメートル位内側へ移動しておきます。

植物は動く空気が好きです。暖かい日は窓を開け外の空気を取り入れましょう。

また、冬の室内は乾燥しがちですので通常の水遣りのほか、時々霧吹き等で直接葉への水遣りで植物は元気になります。

冬の鉢物で人気のシクラメン、ルクリアの場合

シクラメン 黄ばんだ葉が無く、芽がつんでいて、徒長していない弾力のあるものが良いものです。はながら花柄(咲き終わった花)はこまめに摘んでおきましょう。

ルクリア 耐寒性は強いですが寒冷期は室内へ取り込み、12月開花後切り戻すと3~4月に再び開花します。

冬の鉢物管理のポイントは温度の高低差を激しくしないことです。 指導：塚山公園みどりの相談所 福本 伊之助 先生

緑に関する専門相談は  
塚山公園みどりの相談所  
くさばな  
@3302 - 9387  
(毎週土・日曜日)

## 緑の歳時記

### ヒイラギ(柊) = モクセイ科

ヒイラギといえば、クリスマスを連想される方が多いと思いますが、正解は節分です。昔は、魔除けとして、鯛の頭を刺して戸口に飾りましたが、最近では余り見られなくなったようです。

モクセイ科の「緑」の紹介が続きましたが、ヒイラギは福島県以西に分布する常緑の低木で、11月中頃から4弁の白くて小さい花を咲かせます。雌雄異株で、楕円形の実が6~7月ごろ熟します。葉に鋭い鋸歯がありますが、老木になると円熟味?が出るのか、棘のない葉が多くなるようです。

クリスマスの飾りつけに使われる赤い実と、ヒイラギに見える棘のある「緑」は、モチノキ科のセイヨウヒイラギやアメリカヒイラギで、ヒイラギモドキです。こちらは、春に黄緑色の花をつけ、クリスマス前に赤い実がなります。

ヒイラギナンテンは江戸時代に中国から渡来したメギ科の「緑」で、これもヒイラギとは別の種類です。



花言葉 機知・剛直・先見・用心

## ＜編集後記＞

昭和48年11月「みどりの壁新聞」としてスタートした本紙は今年30周年を迎えました。これまで、みどりに関するさまざまな情報をお届けしてきました本紙は、今ではみどりのボランティア杉並の会員と一緒に編集をしています。これからも、読みやすく、まちの情報なども記事にして、読んで楽しい紙面づくりを目指していきます。よろしくお願いたします。

- ◆ 広報誌として、見るだけでなく内容を読んでもらえるように企画し編集することの難しさを味あわせて頂きました。(芳)
- ◆ 冬至は一年で最も昼の短い日。陰の極は陽の始まりといえます。何事も落ち込んだ後には、必ず陽転する時が来ると信じて、頑張りたいと思います。(中)
- ◆ キンモクセイの写真をたくさん撮りました。カラーで写真を載せることが出来れば、良いのですが・・・。(青)
- ◆ 今年もいよいよ暮れになりました。毎年、一年一年が短くなります。(山)

みどりの新聞 126号 平成15年12月20日発行

【編集】みどりのボランティア杉並  
【編集・発行】杉並区都市整備部公園緑地課  
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎3312-2111 内線3464  
<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>

2100

PRINTED WITH  
SOYINK

この印刷物は、大豆インクを使用しています。また、古紙配合率100%再生紙を使用しています。